

目 次

I	平成28年度 さいたま市学習状況調査の概要	1
II	調査結果と特徴的な問題の解説	
i	小学校第5学年	
1	調査問題【出題の趣旨】	4
2	調査問題一覧表【設問別】	5
3	特徴的な問題と解説	6
ii	小学校第6学年	
1	調査問題【出題の趣旨】	8
2	調査問題一覧表【設問別】	9
3	特徴的な問題と解説	10
iii	中学校第1学年	
1	調査問題【出題の趣旨】	12
2	調査問題一覧表【設問別】	13
3	特徴的な問題と解説	14
iv	中学校第2学年	
1	調査問題【出題の趣旨】	18
2	調査問題一覧表【設問別】	19
3	特徴的な問題と解説	20
III	調査結果概況【市全体】	24
IV	成果と課題	26

I 平成28年度 さいたま市学習状況調査の概要

1 調査の目的

- (1) 各学校は、自校の教育の成果と課題について、市全体の状況を基に、継続的かつ多面的に把握・分析し、教育課程の編成に生かすとともに、「さいたま市小・中一貫教育」を踏まえ、教育指導の工夫改善に取り組む。
- (2) 児童生徒は、自らの学力面の伸びや課題及び生活面の成長や課題を継続的に把握し、理解することで、よりよい学習習慣や生活習慣の確立のために生かす。
- (3) さいたま市教育委員会（以下、「教育委員会」という。）は、児童生徒の学習や生活状況について、継続的かつ多面的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。さらに、そのような取組を通じて、学校における教育指導の継続的な工夫改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

- (1) さいたま市立小・中・特別支援学校の原則として各学年の全児童生徒を対象とする。なお、これ以降、小学校及び特別支援学校小学部を「小学校」、中学校及び特別支援学校中学部を「中学校」と示す。
- (2) 「学力に関する調査」は小学校第3学年から中学校第3学年まで、「生活習慣等に関する調査」は全学年で実施する。
- (3) 特別支援学校及び小・中学校の特別支援学級に在籍している児童生徒のうち、調査の対象となる教科について、以下に該当する児童生徒は、調査の対象としないことを原則とする。
 - ア 下学年の内容などに代替して指導を受けている児童生徒
 - イ 知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の教科の内容の指導を受けている児童生徒
- (4) 日本語指導が必要な児童生徒については、原則として、他の児童生徒と同様の授業を受けている場合、調査の対象とする。ただし、取出し指導を受けているなどの事情がある場合は、当該教科を調査の対象としないことを可能とする。

3 調査実施日等

- (1) 調査実施日は、平成29年1月10日(火)とする。
- (2) 小学校第1学年の「生活習慣等に関する調査」は、各学校の状況に応じて調査用紙の家庭への配付日を決し、適切な回収期間を設定して実施する。
- (3) 小学校第5、6学年及び中学校における「生活習慣等に関する調査」は、各学校の状況に応じて後日行うことを可能とする。ただし、できる限り速やかに実施する。

4 調査の内容

- (1) 実施教科・時間・順序については、表1、2のとおりとする。

＜表1＞ 数字は調査に要する時間を示す。(単位：分)

調査対象		「学力に関する調査」 教科・時間・順序					「生活習慣等に関する調査」
		1校時	2校時	3校時	4校時		
		国語	算数	社会	理科		
小学校	第1学年						25
	第2学年						
	第3学年	20	20				
	第4学年	20	20				
	第5学年	40	40	40	40		
	第6学年	40	40	40	40		

<表 2>

数字は調査に要する時間を示す。(単位：分)

調査対象		「学力に関する調査」 教科・時間・順序 ※					「生活習慣等に関する調査」
		1校時	2校時	3校時	4校時	5校時	
中学校	第1学年	国語	数学	理科	グローバル・スタディ (英語)	社会	25
		50	50	50	50	50	
	第2学年	国語	数学	グローバル・スタディ (英語)	社会	理科	
		50	50	50	50	50	
	第3学年	国語	数学	社会	理科	英語	
		50	50	50	50	50	

※ 第1、第2学年のグローバル・スタディ（英語）及び第3学年の英語の調査は、リスニングテストを含むため、学年により実施順序を変えることとする。

(2) 調査事項

ア 「学力に関する調査」

(ア) 小学校第3学年から中学校第2学年までの出題範囲は、「さいたま市小・中一貫教育」カリキュラムに示された年間指導計画例を基本として、当該学年の11月までの指導事項を原則とする。

(イ) 出題の内容は、これまでの「さいたま市学習状況調査」及び「全国学力・学習状況調査」の課題にかかわる内容を含め、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。

- ① 当該学年及び前学年までの知識・技能等を中心とした出題（基礎問題）
- ② 当該学年及び前学年までの知識・技能等を実生活の様々な場面で活用する出題（活用問題）
- ③ 課題解決に向けて思考し、判断する力、表現する力等に関わる内容の出題（チャレンジ問題）

(ウ) 出題の形式については、記述式の問題を一定割合で導入する。

(エ) 中学校第3学年については、「平成28年度 さいたま市学力検査実施要項」及び「平成28年度 さいたま市学力検査問題作成要領」に基づく。

イ 「生活習慣等に関する調査」

(ア) 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等について、調査する。ただし、個人の思想や信条等に踏み込んだ質問項目は設定しない。

(イ) 調査に要する時間は表1、2に示した時間を原則とするが、各学校・各学年の状況に応じて適切な時間を充てるものとする。

(3) 「さいたま市小・中一貫教育」に基づき、各教科において指導事項の定着状況を把握するために、複数学年で同一の問題を出題している。社会科については、以下の表のとおりである。

調査問題の概要	出題した学年と問題番号	備考
八方位に関する問題	小5 <u>1</u> (1)、小6 <u>1</u> (1) 中1 <u>2</u> (4)	H27 市調査【小6】正答率 54.6% H27 市調査【中1】正答率 68.9%
方位と地図記号を基に、地図を読み取る問題	小5 <u>1</u> (3)、小6 <u>1</u> (3) 中1 <u>1</u> (1)	H26 市調査【小5】正答率 57.8% H27 市調査【小6】正答率 77.5%
都道府県の位置や名称に関する問題	小5 <u>4</u> (1)、小6 <u>2</u> (1) 中1 <u>1</u> (2)、中2 <u>3</u> (1)	H26 市調査【小5】正答率 73.5% H27 市調査【中1】正答率 49.2%
赤道、本初子午線、緯度、経度に関する問題	小5 <u>3</u> (2) 中1 <u>2</u> (1)、中2 <u>1</u> (1)	H27 市調査【小5】正答率 58.8% H27 市調査【中2】正答率 62.0%
地図に示された地点の雨温図に関する問題	日本地理…小5 <u>4</u> (2)、小6 <u>3</u> (2)、中2 <u>3</u> (2) 世界地理…中1 <u>3</u> (1)、中2 <u>1</u> (5)	H27 市調査【小5】正答率 43.3% H27 市調査【中1】正答率 55.9%
聖武天皇による東大寺の大仏造営に関する問題	小6 <u>6</u> (1) (2) 中1 <u>5</u> (6)	H27 市調査【小6】正答率 68.1% H27 市調査【中2】正答率 38.1%
幕末～明治期の人物の業績に関する問題	小6 <u>8</u> (2)、 <u>9</u> (1) (2) 中1 <u>1</u> (4)	H27 市調査【小6】正答率 66.5%

Ⅱ 調査結果と

特徴的な問題の解説

社会科の調査問題について、小学校第5学年から中学校第2学年まで、以下の内容を掲載しています。「さいたま市小・中一貫教育」の観点からも、小・中学校の内容を日々の学習指導に役立ててください。

1 調査問題【出題の趣旨】

大問ごとに、出題の意図や趣旨を示しています。特記すべき事項のあるものについては、ここに示しています。

2 調査問題一覧表

設問ごとに、問題の種類、学習指導要領の領域等、評価の観点、設問のねらい、市の正答率を示しています。

3 特徴的な問題と解説

平成28年度調査において、特徴的な問題を取り上げ、出題の趣旨、指導のポイントを示しています。

i 小学校第5学年

1 調査問題【出題の趣旨】

身近な地域や市	① 本問題は、平成26年度市調査【小5】（正答率①(2)40.7%、(3)57.8%、(4)47.5%）及び平成27年度市調査【小6】（正答率①(1)54.6%、(2)40.7%、(4)48.8%）において継続して課題とされた「身に付けた知識を地図上の情報と関連付けて活用すること」に関する問題である。今回は、方位と地図記号を基に地図を読み取ったり、文章で書かれた道順を地図上に線で表したりすることができるかどうかをみる内容で、課題の改善状況を把握するために、小5と小6で同一の問題を出題している。
飲料水の確保	② 本問題は、平成27年度市調査【小6】（正答率④(2)46.9%）において廃棄物の処理についての問題として出題された「健康な暮らしを守る」に関する問題である。今回は、飲料水の確保について、水源地から家庭や学校に供給されるまでの諸事業について理解しているかどうか、節水や水の再利用を通して地域の人々や自分たちが協力する方法を考えているかどうかをみる問題を出題している。
我が国の国土	③ 本問題は、平成27年度市調査【小5】（正答率③(2)58.8%）において課題とされた「赤道についての理解」を含む「世界の主な海洋」に関し、世界地図を活用して、世界の大陸や海洋と我が国の位置関係を理解しているかどうかをみる問題である。今回は、経年比較をすることに加え、地球儀の一層の活用を促すために、地球儀の写真を基に赤道の名称を記述することができるかどうかをみる類似の問題を出題している。
我が国の国土	④ 本問題は、平成27年度市調査【小5】（正答率④(4)43.3%）において、課題とされた日本海側の特徴を示す気温と降水量のグラフ（雨温図）を理解しているかどうかをみる問題と類似の問題を出題している。今回は、複数の雨温図を比較しながら特徴を正しく読み取ることができるかどうかをみる問題である。なお、雨温図を読み取る問題は、「さいたま市小・中一貫教育」の視点から、小6、中1、中2でも出題している。
農業	⑤ 本問題は、「さいたま市小・中一貫教育」カリキュラムにおいて、「円滑な接続のための指導のポイント『統計資料の活用の仕方』」に挙げられている「資料に表されている事柄の全体的な傾向をとらえること」に関する問題である。今回は、都道府県別の米の生産量の多寡を示した地図や米の生産量の変化と米づくりの作業時間の変化を示したグラフから必要な情報を読み取る力が身に付いているかどうかをみる問題を出題している。
水産業	⑥ 本問題は、平成24年度全国調査及び平成24年度からの市調査において、継続して課題がみられた「資料から必要な情報を的確に読み取ることや、読み取ったことを関連付けて考えること」に関する問題である。今回は、日本の漁業の変化について資料から必要な情報を読み取ったり、水産物の価格の決め方について2つの資料を関連付けて考えたりすることができるかどうかをみる問題を出題している。
食料生産	⑦ 本問題は、平成25年度市調査【小5】（正答率③(2)71.4%）における指導のポイント（資料を基に社会的事象の意義を考え表現する力を育てること）に挙げられ、「平成28年度さいたま市の学校教育 推進の指針・指導の努力点 2社会」で努力点にも挙げられている「調べたことを比較・関連付け・総合して考え、社会的事象の意味や働きなどについて伝え合い、お互いの考えを深め合うなどの言語活動の充実を図る」に関する問題である。今回は、食料生産に関する問題点をグラフから読み取る問題や、「地産地消」のよさを考えることができるかどうかをみる問題を出題している。
工業生産	⑧ 本問題は、平成27年度市調査において課題とされた「資料から必要な情報を読み取る技能」や「複数の異なる資料を関連付けた読み取り」に関する問題である。今回は、自動車の生産において、人とロボットが分業する理由を考えることができるかどうか、工場の分布や交通網の様子から工場の立地条件を考えることができるかどうかをみる問題を出題している。

本書では、調査名について、略称を用いている。

略称	調査名
平成24年度全国調査	平成24年度 小学校学習指導要領実施状況調査 社会※抽出調査
平成〇年度市調査【小〇】	平成〇年度 さいたま市学習状況調査 小〇社会

2 調査問題一覧表【設問別】

設問番号	設問のねらい	問題		評価の観点				問題形式	市		過去同一問題等		複数学年での出題	
		基礎問題	活用問題	社会的意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用	知識・理解	社会的意欲・態度	正答率（％）	無解答率（％）	出題年度・調査名【学年】	正答率（％）	出題学年	正答率（％）
1 (1)	八方位（北東）を理解している。	○					○	短	74.0	1.8	H27市【小6】	54.6	小6中1	73.3 67.6
1 (2)	発見カードと地図記号を組み合わせて読み取ることができる。	○				○	○	選	39.5	0.6	◎H27市【小6】	40.7	小6	42.0
1 (3)	方位と地図記号を基に、地図を読み取ることができる。	○			○	○	○	選	74.7	0.8	◎H27市【小6】	77.5	小6中1	76.6 44.9
1 (4)	方位や地図記号を活用することができる。		○	○		○		記	65.3	2.4	H27市【小6】	48.8	小6	68.1
2 (1)	飲料水が、水源地から家庭や学校に供給されるまでの事業を理解している。	○					○	選	57.5	0.5				
2 (2)	水源を確保・維持するために必要な節水や水の再利用など自分たちにできることを考えることができる。	○			○			選	75.5	0.5				
3 (1)	世界地図を活用して、我が国の位置について大陸と海洋、方位を使って示す方法を理解している。	○				○	○	選	80.8	0.7	H27市【小5】	82.8		
3 (2)	赤道について理解している。	○					○	短	55.9	8.2	H27市【小5】	58.8	中2	67.4
4 (1)	福島県の名称と位置を理解している。	○		○			○	選	77.7	3.9	H26市【小5】	73.5	小6中1中2	84.2 56.1 62.7
4 (2)	日本の各地の気候の特徴を示す複数の雨温図を、正しく読み取ることができる。	○				○		選	77.0	1.2	H27市【小5】	43.3	小6中1中2	38.7 80.3 49.2
5 (1)	都道府県別の米の生産量の分布図を正しく読み取ることができる。	○				○		選	89.5	0.5	◎H27市【小5】	87.4		
5 (2)	昔より時間をかけずに多くの米をとれるようになったことについての予想を確かめるために必要な根拠となるグラフを選ぶことができる。		○	○		○		選	70.8	1.0				
6 (1)	グラフから、日本の漁業の変化について読み取ることができる。	○				○		選	76.9	0.8	H27市【小5】	74.6		
6 (2)	育てる漁業の特徴について理解している。	○					○	選	68.2	1.1	H27市【小5】	51.2		
6 (3)	二つの資料から、さんまの水あげ量と値段の決まり方との関係を考え、文で表現することができる。		○	○	○	○		記	41.7	4.5	◎H27市【小5】	64.5		
7 (1)	グラフから、日本の主な食料自給率が低いものを読み取ることができる。	○				○		選	90.7	1.0				
7 (2)	グラフから、穀物の自給率が低く、輸入に頼っている国を読み取ることができる。	○				○		選	43.1	1.1				
7 (3)	「地産地消」のよさを考えることができる。		○		○			選	70.2	1.3				
8 (1)	ロボットに溶接の作業をさせる理由を考えることができる。		○		○			選	37.5	1.6	H27市【小5】	43.3		
8 (2)	二つの地図資料から、工場の分布と交通の条件について、考えることができる。		○	○	○			記	66.5	4.2				

※「過去同一問題等」とは、本問題と同一あるいは類似の問題で過去の調査において出題された問題のことをいう。

複数ある場合は、代表的なものを挙げている（同一問題には◎を付けている）。

調査名は次の略称を用いている。「市」：さいたま市学習状況調査

※「選択式」とは、選択肢の中から解答を選ぶ問題。「短答式」とは、1つに限定される正答を短い語句または数値を用いて解答する問題。

※「記述式」とは、いくつかの選択肢やいろいろな考え方、答え方があるものなどについて、自分の考えを明確にして書く問題。

※「複数学年での出題」とは、本調査において複数の学年で同一の問題を出題している問題を指す。出題学年と正答率を示している。

★「設問番号」「設問のねらい」の網かけは、【特徴的な問題と解説】で取り上げている問題であることを示している。

3 特徴的な問題と解説

小学校第5学年 我が国の国土

【特徴的な問題】

- 4 (2) 次の3つのグラフから読み取れることは何ですか。下の1～4の中から、最もふさわしいものを一つ選び、その番号を書きましょう。 第5学年 4月 教科書上「日本の地形と気候」

出題の趣旨

本問題は、「平成27年度さいたま市学習状況調査」において、平均正答率が43.3%と課題がみられた「日本海側の気候の特徴を示す雨温図を理解している」かどうかをみる問題について、出題の仕方を変えたものである。今回は、日本の各地の気候の特徴を示す複数の雨温図から必要な情報を読み取ることができるかどうか、さらに、読み取ったことを他の雨温図と比較することができるかどうかをみる問題を出題している。

指導のポイント

○ 雨温図（気温と降水量のグラフ）の読み取り方を指導し、身に付けさせる。

雨温図の読み取り方

- ① 表題の確認
- ② 都市名の確認
(地図上で場所も確認)
- ③ 縦軸、横軸の確認
(左の縦軸は気温、右の縦軸は降水量、横軸は月)
※降水量には、雪も含むこと、気温と降水量はそれぞれの月の平均を表していることをおさえる。
- ④ 折れ線グラフ(気温)と棒グラフ(降水量)の確認

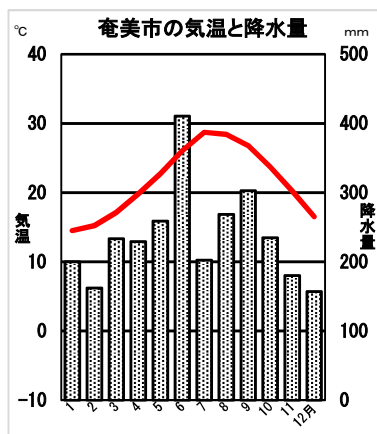
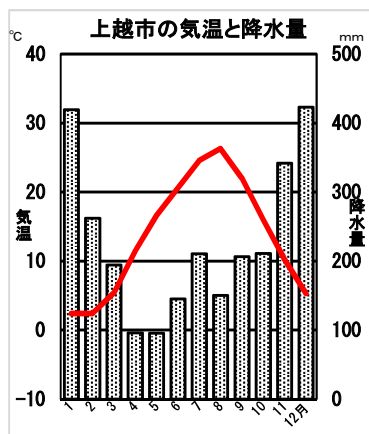
○児童の思考の流れ

- ・網走市では、8月でも気温が20℃くらいだね。さいたま市と比べて涼しそうだね。
- ・北海道は雪が多いから、冬の降水量が多いと思ったけれど、夏の方が多だね。

傾きが急であるほど気温の変化が大きいことなど、変化の様子を読み取らせたい。

例えば、網走市の雨温図の読み取り方を指導するに当たっては、上記①～④の手順で指導していく。児童は雨温図を初めて学習するので、慣れるまでは雨温図から読み取れることをノートに箇条書きさせる。読み取ったことを発表させ、クラス全体で確認していくといった丁寧な指導が大切である。その際、雨温図を拡大印刷したり、実物投影機を用いたりして、大きく見やすく提示し、教師と一緒に確認していくことが大切である。

○ 雨温図の比較をさせる。



雨温図の読み取りができるようになったら、「上越市の冬の降水量は奄美市の冬の降水量より多い。」といったように、複数の雨温図を比較しながら見ていくとよい。比較することで、各地の気候の特色をより明確に理解することができる。

また、「さいたま市小・中一貫教育」の視点からも複数の資料を比較したり関連付けたりして活用する力を付けさせることは大切である。

小学校第5学年 食料生産

【特徴的な問題】

- 7 (2) **資料2**を見て、国内で消費する穀物を輸入に頼っている割合が最も高い国を、次の1～4の中から一つ選び、その番号を書きましょう。
- (3) 「地産地消」のよさとして最もふさわしいものを、下の1～4の中から一つ選び、その番号を書きましょう。

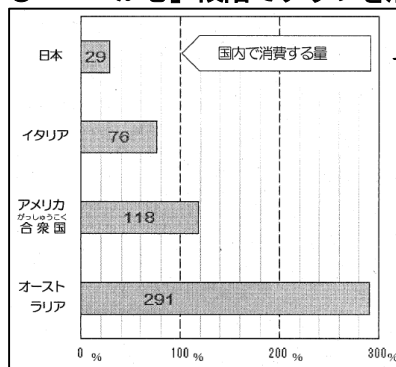
第5学年 9月 教科書上「これからの食料生産」

出題の趣旨

本問題は、「平成28年度さいたま市の学校教育 推進の指針・指導の努力点 2社会」において、本年度の努力点の一つに掲げられている「問題解決的な学習を一層充実させる指導の工夫改善」に関連した問題である。今回は、グラフから食料生産に関する問題点を読み取る問題を出題している。また、食料生産に関する問題を解決する取組の一つとしての「地産地消」について、そのよさを考えることができるかどうかをみる問題を出題している。

指導のポイント

○ 「つかむ」段階でグラフを活用させる。



資料2 主な国の穀物の自給率

※穀物…米や小麦など (平成23年農林水産省データをもとに作成)

日本は自給率が100%を下回っています。つまり、穀物が足りていません。

オーストラリアは、自給率が100%を上回っています。つまり、穀物が余っています。

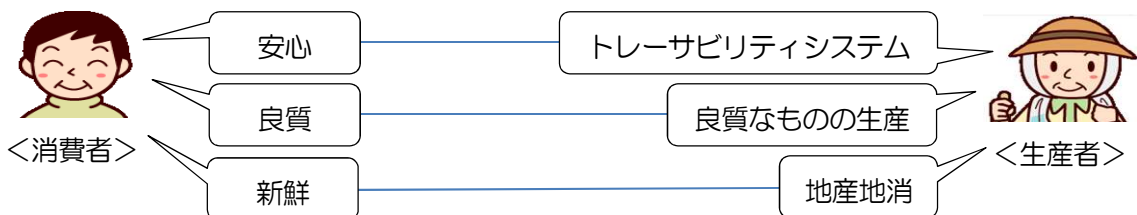
日本は、穀物の自給率が低く、輸入に頼る割合が高い

左の資料2の場合、ただ数値を読み取るだけでなく、その数値からどのようなことがいえるのかを話し合う言語活動が考えられる。「日本は穀物の自給率が低く、輸入に頼る割合が高い」ことを読み取った後、自給率が低いとどのような影響があるのかを考えさせ、学習問題を立てていく。

○ 問題解決的な学習の一層の充実を図るため、「生かす」場面で言語活動を効果的に取り入れる。

本問題で取り上げる内容は、「我が国の農業や水産業」の大単元のまとめである。米づくりや水産業の学習を振り返りながら、食料生産に携わる人々の工夫や努力について調べていく。生産を続けていくための新たな取組（トレーサビリティシステム・地産地消など）を調べて話し合う中で、生産者の工夫や努力についての理解をより確かなものにしていく。そして、消費者の願いと生産者の工夫や努力をつなげて考え、発表する。こうした学習を通して、今後も国内の食料生産を持続させていくためには、生産者・消費者双方がそれぞれに国内で食料を生産することのよさを生かしていくことが大切であると気付くことができるようにする。

<言語活動での児童の発言の例>



トレーサビリティシステムによって、どこで誰が作っているのかが分かるので安心できます。だから、買い物をするときは、できるだけ国産の食料を選びたいと思います。

ii 小学校第6学年

1 調査問題【出題の趣旨】

① 身近な地域や市	本問題は、平成26年度市調査【小5】（正答率①(2)40.7%、(3)57.8%、(4)47.5%）及び平成27年度市調査【小6】（正答率①(1)54.6%、(2)40.7%、(4)48.8%）において、継続して課題とされた「身に付けた知識を地図上の情報と関連付けて活用すること」に関する問題である。今回は、方位と地図記号を基に地図を読み取ったり、文章で書かれた道順を地図上に線で表したりすることができるかどうかをみる内容で、課題の改善状況を把握するために、小5と小6で同一の問題を出題している。
② 県の様子	本問題は、平成24年度からの市調査において、継続して課題がみられた「資料から必要な情報を的確に読み取ることや、読み取ったことを関連付けて考えること」に関する問題であり、平成24年度全国調査において課題とされた「情報を総合して社会的事象の目的を考え、指定された用語を使って表現できる」かどうかをみる問題と類似の問題である。今回は、地域資源の一つである「伝統的な街並み」の保護・活用の目的を問う内容について、指定された用語を用いて表現できるかどうかをみる問題を出題している。
③ 我が国の国土	本問題は、平成27年度市調査【小5】（正答率④(1)57.3%、(4)43.3%）において、課題とされた「北方領土の位置を理解している」「日本海側の気候の特徴を示す雨温図を理解している」かどうかをみる問題である。今回は、経年比較をするために、前年度と類似の問題を出題している。
④ 自然災害の防止	本問題は、平成25年度市調査【小5】より継続して課題とされている「資料から必要な情報を読み取る力」に関する問題である。今回は、地震や津波、風水害、土砂災害、雪害などの様々な自然災害による被害を防止するために国や都道府県が様々な対策や事業をしていることを複数の資料から読み取ることができるかどうかをみる問題を出題している。
⑤ 狩猟・採集や農耕の生活	本問題は、平成26年度市調査【中2】（正答率⑤(2)80.1%）と同様の基本的な知識・理解に関する問題である。今回は、水田跡の遺跡や農具などの遺物や米づくりが始まったことによる人々のくらしの変化について理解しているかどうかをみる問題を出題している。
⑥ 大仏造営の様子	本問題は、平成27年度市調査【小6】において出題された聖武天皇の業績の理解及び資料から天皇中心の国づくりについて考え、表現することができるかどうかをみる問題と類似の問題である。今回は、「さいたま市小・中一貫教育」の視点から、中1でも類似の問題を出題している。
⑦ 室町文化	本問題は、平成26年度市調査【中2】（正答率⑦(5)34.7%）及び、平成27年度市調査【小6】（正答率⑧(1)65.1%、(2)59.3%）において課題とされた室町時代に活躍した人物の名前と業績を理解しているかどうかをみる問題である。今回は、人物名を記述式から選択式に変え、経年比較をするために、前年度と類似の問題を出題している。
⑧ 明治維新	本問題は、平成24年度全国調査及び平成27年度市調査【小6】（正答率⑨(1)67.7%）において課題とされた、「明治期以降の歴史上の人物と業績」の一部（同時期に活躍した人物の理解）に関する問題である。今回は、ペリーや福沢諭吉の業績について正しく理解しているかどうかをみる問題を出題している。
⑨ 大日本帝国憲法の発布	本問題は、平成27年度市調査【小6】（正答率⑩(1)43.6%）において課題とされた「明治期以降の歴史上の人物と業績」の一部（同時期に活躍した人物の理解）に関する問題である。憲法制定に重要な役割を果たした伊藤博文の業績について、正しく理解しているかどうかをみる問題を出題している。(1)では、人物名を記述から選択に変え、経年比較をするために、前年度と類似の問題を出題している。

2 調査問題一覧表【設問別】

設問番号	設問のねらい	問題		評価の観点				問題形式	市		過去同一問題等		複数学年での出題	
		基礎問題	活用問題	関心的・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用	知識・理解	選択式・記述式・短答式・選短記	正答率（％）	無解答率（％）	出題年度・調査名【学年】	正答率（％）	出題学年	正答率（％）
1(1)	八方位（北東）を理解している。	○					○	短	73.3	1.7	H27市【小6】	54.6	小5中1	74.0 67.6
1(2)	発見カードと地図記号を組み合わせて読み取ることができる。	○				○	○	選	42.0	0.5	◎H27市【小6】	40.7	小5	39.5
1(3)	方位と地図記号を基に、地図を読み取ることができる。	○			○	○	○	選	76.6	0.7	◎H27市【小6】	77.5	小5中1	74.7 44.9
1(4)	方位や地図記号を活用することができる。		○	○		○		記	68.1	3.9	H27市【小6】	48.5	小5	65.3
2(1)	新潟県の名称と位置を理解している。	○		○			○	選	84.2	3.9	H26市【小5】	73.5	小5中1中2	77.7 56.1 62.7
2(2)	様々な資料の情報をまとめて、地域資源の保護・活用の目的を考え、指定された用語を使って表現することができる。		○	○	○			記	70.8	3.9				
3(1)	北方領土の位置を理解している。	○					○	選	77.9	0.8	H27市【小6】	57.3		
3(2)	日本海側の気候の特徴を示す雨温図を理解している。	○				○	○	選	38.7	0.7	H27市【小6】	43.3	小5中1中2	77.7 80.3 49.2
4(1)	津波、風水害による被害を少なくするために国や都道府県が様々な対策を取っていることを理解している。	○					○	選	95.3	0.2				
4(2)	複数の資料から、自然災害による被害を少なくするために国や都道府県が行っている様々な対策や事業を読み取ることができる。		○			○		選	85.3	0.4				
5(1)	2300年ほど前、米づくりをしていたと考えられる所に使われていた道具を理解している。	○					○	選	64.9	0.3				
5(2)	米づくりがさかんになり、人々のくらしがどのように変化したのか理解している。	○			○		○	選	65.1	0.3				
6(1)	聖武天皇の業績を理解している。	○					○	選	72.2	0.4	H27市【小6】	61.4		
6(2)	大仏づくりに使われた金属の産出地の資料から、天皇中心の国づくりについて考え、言葉を入れて文を完成させることができる。		○	○	○	○		記	67.7	4.1	H27市【小6】	74.9	中1	65.6
7(1)	室町文化を代表する建造物である金閣を建てた人物（足利義満）の名前と業績を理解している。	○					○	選	63.9	0.6	H27市【小6】	65.1		
7(2)	我が国の水墨画を代表する作品を生み出した人物（雪舟）の名前と業績を理解している。	○					○	選	91.0	0.5	H27市【小6】	59.3		
8(1)	ペリーが率いる米国艦隊の来航により我が国が開国し、江戸幕府が倒れるきっかけになったことを理解している。	○					○	選	76.8	0.5				
8(2)	欧米の思想を紹介した人物（福沢諭吉）の名前と業績を理解している。	○					○	短	76.7	5.5	H27市【小6】	89.3	中1	81.7
9(1)	明治中・後期に活躍した人物（伊藤博文）の名前と業績を理解している。	○					○	選	73.9	0.6	H27市【小6】	43.6	中1	81.7
9(2)	伊藤博文が大日本帝国憲法の制定に深く関わったことを理解している。	○					○	選	69.1	0.6			中1	81.7

※「過去同一問題等」とは、本問題と同一あるいは類似の問題で過去の調査において出題された問題のことをいう。

複数ある場合は、代表的なものを挙げている（同一問題には◎を付けている）。

調査名は次の略称を用いている。「市」：さいたま市学習状況調査

※「選択式」とは、選択肢の中から解答を選ぶ問題。「短答式」とは、1つに限定される正答を短い語句または数値を用いて解答する問題。

「記述式」とは、いくつかの選択肢やいろいろな考え方、答え方があるものなどについて、自分の考えを明確にして書く問題。

※「複数学年での出題」とは、本調査において複数の学年で同一の問題を出題している問題を指す。出題学年と正答率を示している。

★「設問番号」「設問のねらい」の網かけは、【特徴的な問題と解説】で取り上げている問題であることを示している。

3 特徴的な問題と解説

小学校第6学年 県の様子

【特徴的な問題】

- 2 (2) 牧之通りにかかわる人々は、どのようなまちづくりを目指していると考えられますか。
- 3 ページの資料1～資料3を見て、次の の中にある二つの言葉を使って、下の文を完成させましょう。

観光

伝統的なまちなみ

このまちの人々は、

まちづくりを目指していると思います。

第4学年 2月
社会科副読本
「埼玉県の人々のくらし」

出題の趣旨

本問題は、「平成24年度小学校学習指導要領実施状況調査」において課題とされた「情報を総合して社会的事象の目的を考え、指定された用語を使って表現できる」かどうかをみる問題と類似の問題である。今回は、学習指導要領解説 社会編の第3学年及び第4学年の内容(6)ウ「県内の特色ある地域の人々の生活」に関する活用問題として、グラフや写真など様々な種類の資料から必要な情報を読み取り、地域資源の一つである「伝統的な街並み」の保護・活用の目的を考えることができるか問う内容に変えて出題している。

指導のポイント

○ 指定された用語を用いて、考えたことを表現する指導の充実を図る。

- (1) それぞれの資料から分かる情報を的確に読み取らせる。

- ◎都市景観大賞(都市空間部門)
- ◎手作り郷土賞(一般部門)
- ◎アジア都市景観賞
- ◎全国街路事業コンクール優秀賞

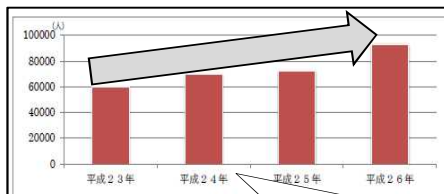
資料1「南魚沼市がこれまでに受けた賞」より

- ・街並みが評価されている。
- ・自分たちの地域で街並みをつくっている。



資料2「牧之通りのまちなみ」より

- ・昔の宿場町の街並みが再現されている。



資料3「牧之通りを訪れた観光客数の変化」より

- ・観光客が年々増えている。

- (2) 読み取った情報を関連付ける。

資料1、資料2より→「昔の宿場町の街並みが受賞している。」

資料1、資料3より→「受賞した街並みに、観光客が集まってきている。」

- (3) 指定された用語を使って、文にまとめる。

「昔の宿場町の街並み」 「観光客が集まってきている」

「このまちの人々は伝統的な街並みを生かし、観光で人が集まるまちづくりを目指している。」

始めから全て書けなくても、書いた考えを消さずに、赤ペンなどで書き加えるなどの児童の思考の過程やその結果を「学びの足あと」として残す習慣を付けることが大切です。考えたことを表現する指導は繰り返し行いましょう。

既習事項と関連付けられるとさらに学びを深められる。
例…川越の蔵づくりの街並みの学習と似ているところがありそうだな。

小学校第6学年 大仏造営の様子

【特徴的な問題】

- 6 (2) さとしさんたちは、**資料2**の大仏の材料の産出地から考えたことを話し合いました。次の二つのふき出しの**(イ)**に**共通して入る言葉**を、**解答用紙**に書きましよう。



大仏づくりに必要な材料は、**(イ)**から集めたのだね。



つまり、**朝廷**の力が**(イ)**に**及んだ**ということが考えられるね。

第6学年 5月 教科書上「大陸に学んだ国づくり」

出題の趣旨

本問題は、「平成27年度さいたま市学習状況調査」において出題された「資料から天皇中心の国づくりについて考え表現すること」ができるかどうかをみる問題(正答率74.9%)と類似の問題である。

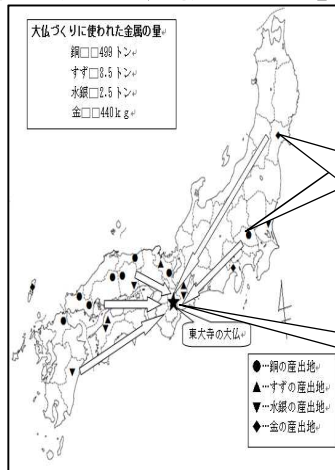
なお、大仏造営については、「さいたま市小・中一貫教育」の視点から平成26年度の市学習状況調査中学校第1学年でも類似の問題を出題している。

指導のポイント

○ 歴史的内容に関する地図資料を活用して、「調べたこと」を基に「考えたこと」を表現させる。

地図資料の読み取り方

- ①表題の確認
- ②凡例の確認
- ③視点を絞った読み取り
 - ・どのようなものが集まっているか
 - ・どこから集まっているか
 - ・どこへ集まっているか
- ④資料から分かることのまとめと発表



銅がとても多い。

今の宮城県や宮崎県など、奈良の都から遠いところからも来ている。

奈良に集まっている。

全国の様々な場所から大仏づくりに必要な材料が奈良に集まっている。

たくさんの材料を全国から集めることができたのはなぜだろう。

話し合い

朝廷の力が全国に及んだから。

例えば、大仏の材料の産出地を表す地図資料の読み取り方を指導するに当たっては、上記①～④の手順で指導していく。視点を絞った読み取りを行ったうえで、まとめるとどのようなことが言えるのかを児童に考えさせる。その際、書いた考えは消さずに、赤ペンで付け加えをさせるなど児童の思考の過程やその結果を「学びの足あと」として残す習慣を付けていく。

次に、資料を読み取って分かったことや疑問に思ったことから、問題意識をもたせる。さらに、少人数やクラス全体での話し合いを通して、考えたことを表現させる。このように指導を段階的に行うことが大切である。

iii 中学校第1学年
1 調査問題【出題の趣旨】

① 小学校の復習	本問題は、平成27年度市調査【中1】（正答率①（7）36.7%）において課題とされた小学校での既習事項の「明治期以降の歴史上の人物と業績についての理解」や、「資料から必要な情報を的確に読み取ること」、「読み取ったことを関連付けて考えること」に関する問題である。今回は、小学校で扱った地図や統計資料、図表を基に、地理的分野では、複数の資料から読み取る問題、公民的分野では、図や文章などから日本の政治の仕組みについての理解を問う問題などを出題している。なお、方位と地図記号を基に、地図を読み取る問題は、平成26年度市調査【小5】（正答率57.8%）を基に、経年比較の問題として出題している。また、都道府県の位置や名称に関する問題は、「さいたま市小・中一貫教育」の視点から、小5、小6、中2においても出題している。
② 世界の地域構成	本問題は、平成26年度市調査【中2】（正答率①（6）44.1%）及び平成27年度市調査【中1】（正答率②（5）48.3%）において継続して課題とされた「目的に応じた様々な地図を活用すること」に関する問題である。今回は、様々な図法で描かれた世界地図を基に、その特徴や見方についての知識を問う問題、0度の経線や大陸の名称を問う問題、世界の地域構成についての知識を問う問題などを出題している。なお、地図上のある地点について緯度と経度を使って表すことができるかどうかをみる問題は、平成27年度市調査【中1】（正答率②（6）44.5%）との経年比較の問題として出題している。
③ 世界各地の人々の生活と環境	本問題は、平成27年度市調査【中1】（正答率③（3）54.3%）において課題とされた「身に付けた知識と資料から読み取った結果を結び付けて考察すること」や、「資料から読み取ったことを整理し、自分の言葉で表現すること」に関する問題である。今回は、複数の地図や資料を基に、世界の気候の特色とその地域の人々の生活の様子について説明する問題、世界的に広がる宗教に関する問題、世界の地域区分と主な国々の名称と位置についての理解を問う問題などを出題している。なお、地図に示された地点の雨温図に関する問題は、「さいたま市小・中一貫教育」の視点から、小5、小6、中2においても出題している。
④ 歴史のとらえ方	本問題は、平成27年度市調査【中1】（正答率④（4）49.4%）において課題とされた「西暦や世紀の関係や年号についての理解」に関する問題である。今回は、略年表と小学校で扱った歴史上の資料を基に、時代区分の視点や時代の名称についての理解を問う問題などを出題している。なお、「年代の表し方や時代区分」については、継続的・計画的に学習が行われているかどうかをみるため、平成27年度市調査との同一問題として、また、中2では類似する問題として出題している。
⑤ 古代までの日本	本問題は、平成26年度市調査【中2】（正答率④（1）34.0%）及び平成27年度市調査【中2】（正答率⑤（1）48.9%）において継続して課題とされた「各時代の特色をとらえ、我が国の歴史の大きな流れを理解すること」に関する問題である。今回は、我が国の原始から古代までの歴史上の人物や文化財について書かれた4枚のカードを基に、農耕の広まりによる生活の変化、国家の形成と発展、東アジアとのかわりなどを理解しているかどうかをみる問題について出題している。なお、聖武天皇が大仏をつくらせた理由を、当時の時代背景とともに考えさせ、思考力・判断力・表現力をみる問題については、平成23年度市調査からの同一問題として、また「さいたま市小・中一貫教育」の視点から、小6でも類似の問題を出題している。

本書では、調査名について、略称を用いている。

略称	調査名
平成○年度市調査【中○】	平成○年度 さいたま市学習状況調査 中○社会

2 調査問題一覧表【設問別】

設問番号	設問のねらい	問題		評価の観点				問題形式	市		過去同一問題等		複数学年での出題	
		基礎問題	活用問題	関心的・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解 社会的事象についての	選択式・記述式・短答式・選短記	正答率（％）	無解答率（％）	出題年度・調査名【学年】	正答率（％）	出題学年	正答率（％）
1(1)	方位と地図記号を基に、地図を読み取ることができる。	○			○	○	○	選	44.9	0.4	H26市【小5】	57.8	小5 小6	74.7 76.6
1(2)	都道府県の位置と名称（山形県）を理解している。	○					○	短	56.1	6.6	H27市【中1】	49.2	小5 小6 中2	77.7 84.2 62.7
1(3)	複数の資料を比べて、割合の違いなどを読み取ることができる。	○				○		選	74.0	1.0				
1(4)	明治期に活躍した人物（伊藤博文、福沢諭吉）の業績について理解している。	○					○	選	81.7	0.7			小6	76.7 73.9 69.1
1(5)	時事問題への関心をもつとともに、日本の政治の仕組みを理解している。	○		○		○	○	短	82.1	4.4				
2(1)	地図上の本初子午線の位置を理解している。	○					○	選	74.8	0.6	◎H25市【中2】	83.9	中2	67.4
2(2)	直線的な国境線の国が多くみられる大陸の名称を理解している。	○					○	短	76.9	4.1				
2(3)	緯線と経線が直角に交わる地図の特徴を理解している。		○		○		○	選	64.9	0.8				
2(4)	正距方位図法の見方、8方位に関する知識を身に付けている。	○				○	○	選	67.6	0.6	H27市【中1】	68.9	小5 小6	74.0 73.7
2(5)	地球儀を基に、世界の地域構成に関する知識を身に付けている。		○	○		○	○	選	53.9	0.6				
2(6)	地図上にある地点を、緯度と経度を使って表すことができる。	○			○	○	○	選	36.9	1.5	H27【中1】	44.5		
3(1)	乾燥帯の気候の特色を理解し、その特色を示す雨温図を正しく選択することができる。	○				○	○	選	80.3	1.5	H27市【中1】	55.9	小5 小6 中2	77.0 38.7 49.2
3(2)	複数の資料を基に、高山地域の気候の特色を説明することができる。		○		○		○	記	61.8	9.1				
3(3)	複数の資料を基に、冷帯の気候の特色と、その地域の人々の生活の様子を理解している。		○		○		○	記・選	63.6	4.7				
3(4)	世界の宗教の分布について理解している。	○				○	○	選	67.9	2.1	H27市【中1】	67.9		
3(5)	世界の地域区分と、主な国々の名称と位置を理解している。	○					○	選	49.6	2.5				
4(1)	資料を見て、関連する時代の名称を理解している。	○					○	短	83.0	5.3	◎H27市【中1】	81.2		
4(2)	西暦と世紀の関係や、年号（元号）について理解している。	○					○	選	38.0	2.0	◎H27市【中1】	49.4		
4(3)	資料を見て、関連する時代についての知識を身に付けている。	○					○	選	61.4	3.9				
5(1)	原始から古代の歴史的事を、年代の古い順に並べることができる。	○				○	○	選	53.1	1.2	H27市【中2】	63.1	中2	63.3
5(2)	聖徳太子によって整えられた政治制度について理解している。	○			○	○	○	選	80.1	1.3	H27市【中2】	70.1		
5(3)	稲作文化が広まった頃と同じ時代の文化財等について理解している。	○				○	○	選	80.4	1.2	H27市【中2】	64.0		
5(4)	7世紀に日本の政治や文化に影響を与えた東アジアとのかわりについて理解している。	○					○	短	66.4	1.5				
5(5)	国風文化が栄えた頃の政治の中心地を、地図上から選ぶことができる。	○				○	○	選	79.5	2.2				
5(6)	聖武天皇が大仏をつくらせた理由を、時代背景とともに説明することができる。		○		○		○	記	65.6	11.2	◎H27市【中2】	38.1	小6	67.7

※「過去同一問題等」とは、本問題と同一あるいは類似の問題で過去の調査において出題された問題のことをいう。
複数ある場合は、代表的なものを挙げている（同一問題には◎を付けている）。
調査名は次の略称を用いている。「市」：さいたま市学習状況調査

※「選択式」とは、選択肢の中から解答を選ぶ問題。「短答式」とは、1つに限定される正答を短い語句または数値を用いて解答する問題。
「記述式」とは、いくつかの選択肢やいろいろな考え方、答え方などがあるものなどについて、自分の考えを明確にして書く問題。

※「複数学年での出題」とは、本調査において複数の学年で同一の問題を出題している問題を指す。出題学年と正答率を示している。

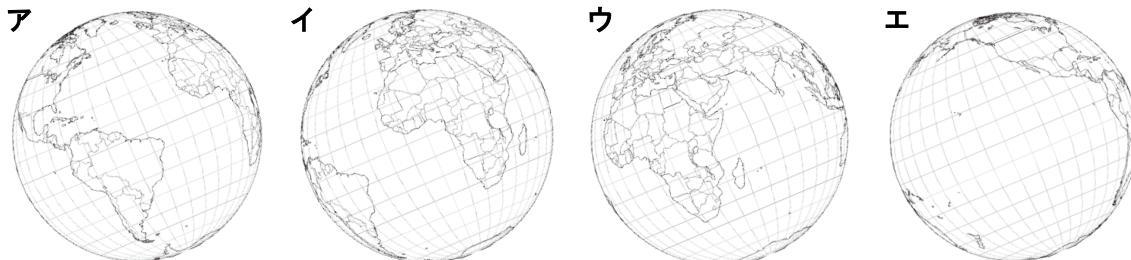
★「設問番号」「設問のねらい」の網かけは、「特徴的な問題と解説」で取り上げている問題であることを示している。

3 特徴的な問題と解説

中学校第1学年 「世界の地域構成」

【特徴的な問題】

- 2 (5) 左のページの地図3は、地球儀をみて作成した略地図です。地図3の図の反対側からみた略地図として正しいものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。



(注) 地図3は省略

(<http://www.craftmap.box-inet/>より作成)

第1学年 地理 「世界の姿」

出題の趣旨

本問題は、平成27年度各市調査において課題とされた「目的に応じた様々な地図を活用すること」に関する問題である。今回は、地球上の位置関係や陸地面積、形状を正しくとらえている地球儀を基に作成した略地図を提示し、世界の地域構成を大観させるために必要とされる、地球儀や世界地図の活用に関する基礎的な知識や技能が身に付いているかどうかをみる問題を出題している。



地球儀を使った授業実践の様子

指導のポイント

- 体験的な活動を通して、大陸や世界の国々の球面上の位置関係をとらえさせる。
地球儀を使った体験的な授業展開の例としては、次のような内容が挙げられる。

《例》 地球儀を活用した授業展開

- ・地球儀から大陸や海洋、世界の国々を探し、位置を確認する。
- ・地球儀を使い、陸半球と水半球を図に描く。
- ・地球儀の日本の位置に十字に貼ったテープをあて、東西方向へ進むとどここの国に到達するかを調べ、世界地図と比較する。
- ・地球儀と世界地図で、ある陸地（グリーンランドなど）の形や面積の違いを把握する。

また、世界地図についても、面積の正しい地図や中心からの距離と方位の正しい地図など、目的に応じた様々な地図を取り上げ、それらの特色に留意して読み取りを行わせることなどが考えられる。このような学習活動を通して、地球儀や地図の適切な活用の仕方を身に付けさせることが大切である。そのためには、日常的に地球儀や世界地図に親しむことのできる学習環境を整えることも必要である。

- 意図的・計画的に、地図や地球儀を活用した学習活動の充実を図る。

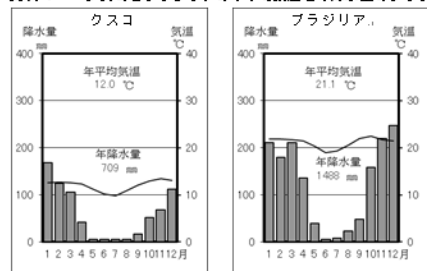
世界を大きくとらえたり、学習した成果を整理したりする際に、世界地図を活用することは大変有効である。また、地図を読み取るだけでなく、略地図を描かせたりすることは、地図に関する技能やその事象に関する理解をより深めさせることにもつながる。中学校地理的分野において「目的に応じた様々な地図」を取り上げる「世界の地域構成」の単元以降の学習においても、意図的・計画的に地図や地球儀を活用させ、生徒の地図を活用する技能の向上を図ることが大切である。

中学校第1学年 「世界各地の人々の生活と環境」

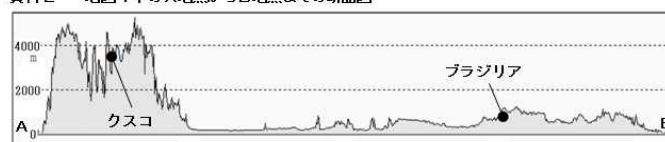
【特徴的な問題】

- ③ (2) みなさんは、左のページの地図1中に示したクスコ、ブラジリアの2つの都市の気温と降水量について調べ、次の資料1を作成したところ、2つの都市は、ほぼ同緯度にあるにもかかわらず、年平均気温に大きな違いがみられることに気付きました。その理由と2つの都市の年平均気温の違いについて、資料1と資料2を参考にして、解答用紙の枠内に合うように書きなさい。

資料1 クスコとブラジリアの年平均気温と年降水量のグラフ



資料2 地図1中のA地点からB地点までの断面図



(注) 地図1は省略

第1学年 地理 「世界各地の人々の生活と環境」

出題の趣旨

本問題は、平成27年度各市調査において課題とされた「身に付けた知識と資料から読み取った結果を結び付けて考察すること」や、「資料から読み取ったことを整理し、自分の言葉で表現すること」に関する問題である。今回は、断面図から標高の違いをとらえ、気温は、緯度の違いだけでなく標高の違いによっても影響を受けることを説明することができるかどうかをみる問題を出題している。なお、文章で表現する問題については、無解答率が高く、継続的な課題としてとらえている。また、地図に示された地点の雨温図に関する問題は、「さいたま市小・中一貫教育」の視点から、小5、小6、中2においても出題している。

指導のポイント

- 資料の読み取り方の視点を身に付けさせる。

まず、地図1にあるクスコとブラジリアの位置関係から、この2つの都市がほぼ同緯度に位置することを確認させる。そして、資料1の雨温図を比較し、2つの都市の年平均気温には大きな違いがあることに着目させる。さらに、資料2から、2つの都市の標高が大きく異なっていることを読み取らせる。その際、南半球に位置する都市は、6～8月の時期の気温が低く、日本と季節が逆であることについてもおさえておくべきである。

このような複数の資料の読み取りにおいては、まず、それぞれの資料から読み取れる内容を短文で表現する学習活動を取り入れることが考えられる。また、あらかじめ指定したキーワードを入れて記述したり、説明したりする活動など、スモールステップで計画的に指導することが必要である。

- 多様な学習活動を通して、思考力・判断力・表現力の育成を図る。

世界各地の気候を取り扱う際は、ICTを効果的に活用して、その地域に住む人々の衣食住など、特徴的な生活の様子が分かる写真資料を基にイメージさせることが有効である。また、生徒自身が作成した統計資料や地図を、比較したり、考察したりする学習活動や、個人の考えや意見を小グループで伝え合う活動を通して、多様な視点があることに気付かせたい。その際、思考の過程が残せるようなワークシートなどの工夫も加え、言語活動の充実を図ってきたい。



中学校第1学年 「歴史的分野（歴史のとらえ方）」

【特徴的な問題】

- 4 (2) 次の文中の **A** , **B** にあてはまる語句や数字の組み合わせとして正しいものを、下の表の **A**～**E**の中から一つ選び、その記号を書きなさい。

略年表の **↔** ①のころに活躍した源頼朝は、1147年に生まれ、1199年に亡くなったと伝えられています。つまり、この人物が生きていたのは、**A** 世紀です。

また、略年表の **↔** ②のころに活躍した徳川家康は、天文11年に三河国（今の愛知県）に生まれました。この「天文」とは、日本で使われている **B** とよばれる時代の表し方です。

表	A	B
ア	11	西暦
イ	12	年号（元号）
ウ	11	年号（元号）
エ	12	西暦

第1学年 歴史

「歴史の流れをとらえよう」

出題の趣旨

本問題は、平成27年度市調査において課題とされた、中学校の歴史的分野の導入部分であり、歴史学習の基礎となる「西暦や世紀の関係や年号についての理解」に関する問題である。今回は、時代を大観し表現する活動に多く扱われている年表とともに、小学校で取り上げられた歴史上の人物を基に、西暦と世紀の関係や、年号（元号）についての基本的な事項を理解しているかどうかをみる問題を出題している。なお、「年代の表し方や時代区分」については、継続的・計画的に学習が行われているかどうかをみるため、平成27年度との同一問題として、また、中2では類似する問題として出題している。

指導のポイント

- 歴史学習の導入として、小学校での既習事項を活用した年表作成などの作業的な学習を設定する。

中学校では、小学校で学んだ歴史上の人物や文化遺産を中心とした歴史学習との関連を図り、大きな時代の流れを中心に学習させるとともに、扱う内容や活動の仕方を工夫し、生徒の歴史を学ぶ意欲を高めることが大切である。なお、「さいたま市小・中一貫教育」カリキュラムでは、時代を大観する作業的な学習の例として、次に示すテーマ別の年表の作成を挙げている。

テーマ別の年表の作成例（参考：「さいたま市小・中一貫教育」カリキュラム 年間指導計画例）

- ・ 歴史を動かした人物からみた歴史の流れ
- ・ 文化で活躍した人物からみた歴史の流れ
- ・ 服装からみた歴史の流れ
- ・ 建物からみた歴史の流れ
- ・ 外国との関係からみた歴史の流れ
- ・ 優れた芸術作品からみた歴史の流れ

- 「年代の表し方や時代区分」の学習を、各時代の学習において継続的・計画的に進める。

各時代の特色をとらえさせる学習においても、「この出来事が起こった年号は何世紀に当たるか」「今、学習している内容は何時代か」を、繰り返し生徒に問うことで知識の定着を図りたい。特に、各時代の中心となる歴史的事象について授業で扱う際に、何世紀かを問うことは有効である。また、毎時間の授業開始時のウォームアップとして、時代区分を暗唱させ、定着度を生徒どうして評価させるなどの学習活動も、生徒の関心・意欲を高めることにつながると考えられる。また、各時代の学習のまとめにおいては、学習した内容を活用してその時代を大観し表現する活動を充実させることも大切である。年表の他、言葉や図で各時代の特色を大きくとらえさせ、表現させることは、ひとまとまりの学習内容の焦点化や脈略が「分かる」学習の実現につながると考えられる。

中学校第1学年 「古代までの日本」

【特徴的な問題】

⑤ (1) カードA～Dを年代の古い順に並びかえ、その順に記号を書きなさい。

(6) ゆうたさんは、奈良の大仏をテーマとして次の資料2を作成しました。資料2の文中の下線部について、聖武天皇が大仏をつくらせた理由を、下の二つの《語句》を用いて説明しなさい。

資料2 奈良の大仏

この大仏は天平文化を代表するものです。このころ伝染病や災害などによる不安が広がっており、聖武天皇はこの大仏をつくるように命じました。

《語句》

仏教 国家



(注) カードA～Dは省略

第1学年 歴史

「古代国家の歩みと東アジア世界」

出題の趣旨

本問題は、平成27年度市調査において課題とされた「各時代の特色をとらえ、我が国の歴史の大きな流れを理解すること」に関する問題である。今回は、我が国の原始から古代までの人物や文化財が書かれた4枚のカードを基に、歴史的事象について理解しているかどうかをみる問題を出題している。

(6)の奈良の大仏に関する問題は、平成23年度市調査から同一問題として出題しているが、いずれも20%程度の高い無解答率であった。また、この問題は「さいたま市小・中一貫教育」の視点から、小6でも類似の問題として出題している。

⑤ (6) 奈良の大仏に関する問題

《市学習状況調査における過去3年間の無解答率》

平成25年度	22.3%
平成26年度	19.0%
平成27年度	20.7%

指導のポイント

○ 言語活動の充実を図り、思考力・判断力・表現力を育成する。

歴史的分野においては、学習した内容の比較や関連付けなどを通して、他の時代との共通点や相違点に着目して、自分の言葉で表現し、各時代の特色を大きくとらえることで確かな理解と定着を図ることができる。

そこで、歴史的事象やその時代の特色を自分の言葉や図などで表し、資料を基に話し合わせる活動や、歴史的な転換点や重要な出来事を年表にまとめて発表させる活動、各時代の歴史的事象をまとめたカードを、並び替えさせたり、それぞれの時代の特色を説明させたりする活動を、単元や各時代の終わりなどの節目に取り組みさせるように年間指導計画に位置付け、計画的・継続的に指導することが大切である。

歴史の流れを捉えよう！
(イメージ図)

古代			
飛鳥時代	奈良時代		
五九三 聖徳太子が摂政になる	七〇一 大業律令	七一〇 都を奈良(平城京)に移す	七四三 墾田永年私財法

各時代のカードをあらかじめ作成しておき、生徒に時代順に並び替えさせる。社会のしくみの特徴と組み合わせると効果的である。

その時代に起こった重要な出来事を黒板に書かせたり、説明させる。最後に全体をとらえさせたりして、大観させる。

iv 中学校第2学年

1 調査問題【出題の趣旨】

① 世界の各地の人々の生活と環境	本問題は、平成26年度市調査【中2】（正答率①（6）44.1%）及び平成27年度市調査【中2】（正答率①（3）41.4%）において継続して課題とされた「目的に応じた様々な地図を活用すること」や、「知識と資料を読み取った結果を結び付けて考察すること」に関する問題である。今回は、様々な図法で描かれた世界地図を基に、その特徴についての知識を問う問題、地図に示されたある地点の人々の生活について問う問題などを出題している。なお、赤道や本初子午線の位置などの地図を読み取る際に必要な知識が定着しているかどうかをみる問題や、地図に示された地点の雨温図に関する問題は、「さいたま市小・中一貫教育」の視点から、小学校高学年、中1でも出題している。
② 世界の諸地域	本問題は、平成27年度市調査【中2】（正答率②（4）33.4%）において課題とされた「複数の資料を関連付けること」や、「基礎的・基本的な知識や技能を活用してまとめること」に関する問題である。今回は、世界地図に示された地域に関する複数の資料を基に、北アメリカ州の農業の特色を読み取る問題、東南アジアの産業について、輸出品の割合の変化を表すグラフからその理由を説明する問題、EUに関する知識を問う問題、地図やグラフに示された国々で多く生産される農作物を問う問題などを出題している。
③ 日本の地域構成・世界と比べた日本の地域的特色	本問題は、平成27年度市調査【中2】（正答率②（4）33.4%）において課題とされた「複数の資料を関連付けること」や、「基礎的・基本的な知識や技能を活用してまとめること」に関する問題である。今回は、会話文と地図を基に、日本の農業の工夫や工業の特色についての基礎的・基本的な知識とともに、資料を読み取ったり、自分の言葉で表現したりする力を問う問題、日本と世界のある都市との時差を求めて地図上の位置を選択する問題などを出題している。なお、都道府県の位置や名称に関する問題や、雨温図に関する問題は、「さいたま市小・中一貫教育」の視点から、小5、小6、中1でも出題している。
④ 日本・（近世の日本）	本問題は、平成27年度市調査【中2】（正答率⑤（3）19.5%）において課題とされた「中世の民衆の動き」や、「各時代の政治や文化などの歴史的事象に関する基礎的・基本的な事項」に関する問題である。今回は、テーマ史として、古代から近世までの歴史上の人物の業績が書かれた4枚のカードを基に、年代の古い順に並べ替える問題や、資料から同じ時代の文化財を選択することができるかどうかをみる問題、資料を活用して歴史上の人物が行った政策について説明することができるかどうかをみる問題について出題している。
⑤ 古代までの日本・中世の日本・（近世の日本）	本問題は、平成27年度市調査【中2】（正答率⑤（6）22.5%）において課題とされた「類似する用語の正しい概念の理解」や、西暦や世紀の表し方についての理解に関する問題である。今回は、古代から近世の歴史的事象に関する略年表を基に、近世のヨーロッパ人来航の影響について理解しているかどうかをみる問題、歴史上の出来事の舞台となった場所を地図から選択する問題、中世の文化の特色と代表的な文化財を選択する問題などを出題している。なお、「年代の表し方や時代区分」については、継続的・計画的に学習が行われているかどうかをみるため、平成23年度市調査からの同一問題として、また、中1では類似する問題として出題している。

2 調査問題一覧表【設問別】

設問番号	設問のねらい	問題		評価の観点				問題形式	市		過去同一問題等		複数学年での出題	
		基礎問題	活用問題	関心的・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用	知識・理解	社会的な事象についての	選択式・記述式・短答式・選択式・短記	正答率（％）	無解答率（％）	出題年度・調査名【学年】	正答率（％）	出題学年
1 (1)	地図上の本初子午線と赤道の位置を理解している。	○				○	○	選	67.4	0.3	◎H27市【中2】	62.0	小5 中1	55.9 74.8
1 (2)	正距方位図法の見方を理解し、世界の大陸に関する知識を身に付けている。	○				○	○	選	50.3	0.3	◎H26市【中2】	36.3		
1 (3)	目的に応じた様々な地図の特徴を理解している。	○				○	○	選	54.6	0.4	H25市【中2】	82.4		
1 (4)	高山地域に住む人々の生活の様子を理解している。	○					○	選	57.5	0.5				
1 (5)	地中海周辺の気候の特色を理解し、その特色を示す雨温図を読み取ることができる。	○				○	○	選	55.6	0.5			小5 小6 中1	77.0 38.7 80.3
2 (1)	ヨーロッパ州内のEUで使用されている共通通貨の名称を理解している。	○					○	短	71.5	8.7				
2 (2)	資料から、東南アジアの工業の発展について説明することができる。		○		○	○	○	記	25.4	21.3				
2 (3)	フランス、アメリカで多く生産される農作物を理解している。	○				○	○	選	39.7	0.8	◎H26市【中2】	58.1		
2 (4)	複数の資料から、アメリカの農業の特色を読み取ることができる。	○			○	○	○	選	59.3	1.2				
3 (1)	都道府県の位置と名称（三重県）を理解している。	○					○	短	62.7	8.6			小5 小6 中1	77.7 84.2 56.1
3 (2)	太平洋側、中央高地、日本海側の気候の特色を理解し、その特色を示す雨温図を読み取ることができる。	○				○	○	選	49.2	1.0			小5 小6 中1	77.0 38.7 80.3
3 (3)	温暖な気候の地域で行われている日本の農業の工夫を理解している。		○		○		○	記	46.2	14.6				
3 (4)	複数のグラフから、日本の工業の特色を読み取ることができる。	○				○	○	選	45.4	1.1				
3 (5)	会話文から日本とある都市との時差を求め、地図上の位置を選ぶことができる。		○		○	○	○	選	42.3	1.6				
4 (1)	資料を基に、古代から近世に活躍した人物を年代の古い順に並べ替えることができる。	○			○		○	選	63.3	0.7	H27市【中2】	63.1	中1	53.1
4 (2)	国風文化の代表的な文化財を理解している。	○					○	選	49.8	0.7				
4 (3)	徳川吉宗が行った享保の改革について理解している。	○			○		○	選	40.6	0.9				
4 (4)	資料を基に、豊臣秀吉が行った政策について説明することができる。		○		○		○	記	31.3	15.3				
4 (5)	室町時代の民衆の生活の様子を理解している。	○			○		○	選	39.2	1.4	H27市【中2】	19.5		
5 (1)	中世という時代区分を理解している。	○					○	選	56.6	1.3	◎H27市【中2】	48.9		
5 (2)	西暦と世紀の関係について理解している。	○					○	短	57.3	6.4	H27市【中2】	52.0		
5 (3)	元寇に関連のある場所を、地図上から選ぶことができる。	○				○	○	選	47.9	1.9				
5 (4)	室町文化の特徴とその時代の代表的な文化財の組み合わせを、正しく選択することができる。	○			○	○	○	選	37.5	1.9	H27市【中2】	65.3		
5 (5)	近世のヨーロッパ人入航による影響を理解している。	○					○	選	62.6	1.8				
5 (6)	江戸幕府の政治制度について理解している。	○					○	短	46.3	23.2				

※「過去同一問題等」とは、本問題と同一あるいは類似の問題で過去の調査において出題された問題のことをいう。

複数ある場合は、代表的なものを挙げている（同一問題には◎を付けている）。

調査名は次の略称を用いている。「市」：さいたま市学習状況調査

※「選択式」とは、選択肢の中から解答を選ぶ問題。「短答式」とは、1つに限定される正答を短い語句または数値を用いて解答する問題。

「記述式」とは、いくつかの選択肢やいろいろな考え方、答え方があるものなどについて、自分の考えを明確にして書く問題。

※「複数学年での出題」とは、本調査において複数の学年で同一の問題を出題している問題を指す。出題学年と正答率を示している。

★「設問番号」「設問のねらい」の網かけは、【特徴的な問題と解説】で取り上げている問題であることを示している。

3 特徴的な問題と解説

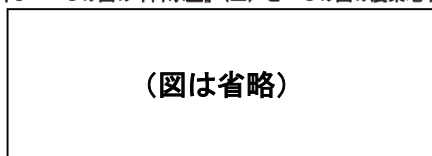
中学校第2学年 「世界の諸地域」

【特徴的な問題】

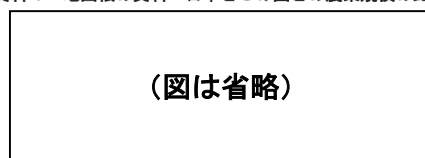
- 2 (4) みなさんは、「地図中のCの国の農業には、どのような特徴がみられるか」について、クラスの人々に説明しようと考えました。

次の資料3、資料4は、みなさんが説明するために集めた資料です。資料3、資料4から分かることを説明した文章として誤っているものを、次のページのア～ウの中から一つ選び、その記号を書きなさい。

資料3 「Cの国の年降水量」(上)と「Cの国の農業地域」(下)



資料4 地図帳の資料「日本とCの国との農業規模の比較」



第1学年 地理 「世界の諸地域」

出題の趣旨

本問題は、平成27年度市調査において課題とされた「複数の資料を関連付けること」や、「基礎的・基本的な知識や技能を活用してまとめること」に関する問題である。今回は、①北アメリカ州の年降水量を表す主題図、②北アメリカ州の農業地域を表す主題図、③アメリカの農場の様子を表すイラスト、④日本とアメリカの農業規模を表す統計資料の4点の資料から、北アメリカ州の農業の特色について読み取り、資料から得た情報を関連付けて社会的事象の特徴を考察することができるかどうかをみる問題を出題している。

指導のポイント

- 丹念に資料を読み取り、それぞれの資料を基に考察させる。

地図や統計など各種の資料から必要な情報を集めて読み取ること、社会的事象の意味、意義を解釈すること、事象の特色や事象間の関連を説明すること、自分の考えを論述することは、言語活動の充実を図る意味でも大変重要な学習活動である。しかし、複数の資料を読み取り、自分の言葉で説明したり表現したりすることに課題があり、これまでの「さいたま市学習状況調査」においても、記述式の問題では、特に無解答率が高い傾向がみられる。そこで、普段の授業では、「それぞれの資料から読み取れるのは、どのようなことか」という視点で、表題とともに丹念に読み取らせたい。その際、資料から読み取った内容について短文で表現できるようなワークシートの工夫などは大変有効である。

- 複数の資料を関連付け、自分の言葉で表現させる。

複数の資料からの情報を関連付けたり、基礎的・基本的な知識や技能を活用して自分の言葉で表現したりする学習活動では、個人で考えさせるだけでなく、ペア学習や小グループでの学び合いや伝え合いの学習を取り入れることも必要である。その際、「学びの足あと」として、ノートやワークシートには意見交換を通して考えた内容をメモとして残させると、思考の過程の振り返りに生かすことができる。また、複数の主題図の関連性を視覚的にとらえさせるために、トレーシングペーパーやICTを活用して、主題図を重ね合わせたり、画面上で比較したりすることは、生徒が資料に対して興味・関心をもって触れさせることにもつながると考えられる。

「学びの足あと」が残せるワークシート例

Q1 資料1から分かることを① ②に合うように埋めてみよう。 資料1の南東部では①、北西部は②の栽培がさかんである。 空欄補充	
Q2 資料2から分かることを書いてみよう。 自分の考え 資料2をみると	隣の人の考え 資料2をみると ペア学習 が分かる。 が分かる。
Q3 Q1、Q2で書いたことを、自分の言葉でまとめてみよう。 自分の考え 自分のグループでのまとめ グループ学習	

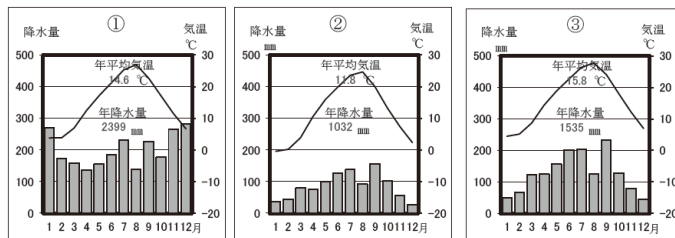
スマイルステップで

中学校第2学年 「世界と比べた日本の地域特色」

【特徴的な問題】

- 3 (2) 下線部 (b) について、日本の気候は四季の変化がありますが、各地で特徴が異なります。次の資料1は、地図1中のA、B、Cの3つの都市の気温と降水量を表したグラフです。それぞれの都市に当てはまるグラフの組み合わせとして正しいものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。

資料1



(理科年表 平成28年より作成)

- (4) のぞみさんが滞在している都市を、次の地図2中のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。

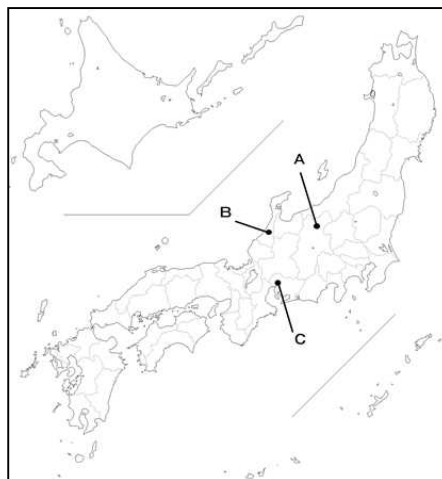
(注) 地図2は省略

第2学年 地理 「世界から見た日本の姿」

出題の趣旨

本問題は、平成27年度市調査において課題とされた「基礎的・基本的な知識や技能を活用してまとめること」に関する問題である。今回は、会話文と地図を基に、日本と世界のある都市との時差から地図上の位置を求めることができるかどうかをみる問題を出題している。なお、雨温図に関する問題は、「さいたま市小・中一貫教育」の視点から、小5、小6、中1でも出題している。

地図1



指導のポイント

- 雨温図と地図を関連付けて考えさせる。

3 (2) では、まず資料1から雨温図①～③のそれぞれの特徴を読み取らせ、比較ができるように分かりやすくまとめさせる学習活動が考えられる。具体的には、年間降水量や年平均気温、季節ごとの変化や違いなどについて、自分なりの言葉で説明するだけでなく、図や表、地図を活用してまとめさせることにより、複数の資料を活用し、表現する力も身に付けさせることができると考えられる。

- 会話文から時差を求める。

時差については、会話文のように、生活場面と関連付けたり、地図や地球儀を見比べたり、簡単な時差の計算を繰り返し学習させることが重要である。日本の標準時子午線が東経135度であることなどの基本的な事項とともに、数学科の第1学年の「正の数と負の数の必要性和意味を理解すること」などの学習内容を活用して、経度の差や時差の計算の仕方（特に東半球と西半球での時差の計算）や、求めた時間を進めるのか、戻すのかなどといった学習内容の確実な定着を図ることが大切である。

《会話文の内容》

のぞみさん：いいえ、こっちはもう「おやすみ」の時間よ。
たかおさん：あっそうか、うっかりしていたよ。日本は朝の7時で、起きたばかりだったから。
のぞみさん：こっちは夜の11時よ。それじゃ「おやすみ」。

中学校第2学年 「古代までの日本～近世の日本（テーマ史）」

【特徴的な問題】

- 4 (4) カードCについて、ゆうたさんは、豊臣秀吉が行ったことについて説明するため、次の資料1、資料2を用意しました。ゆうたさんが用意した説明文にある **X** にあてはまる文を、当時の身分に着目して簡潔に書きなさい。

ゆうたさんが用意した説明文

豊臣秀吉による刀狩や検地などの政策によって、**X**。

第1～2学年 歴史

「近世の日本」

出題の趣旨

本問題は、平成27年度市調査において課題とされた「基礎的・基本的な知識や技能を活用し、複数の資料を関連付けてまとめること」に関する問題である。今回は、テーマ史として、古代から近世までの歴史上の人物の業績が書かれた4枚のカードのうち、豊臣秀吉が行った政策について、複数の資料を活用して、自分の言葉で説明することができるかどうかをみる問題を出題している。

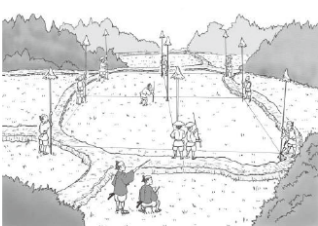
指導のポイント

- 複数の資料の共通性、関連付けを取り入れた指導を行う。

資料1 刀狩令（部分要約）

諸国の百姓が刀やわきざし、弓、やり、鉄砲、そのほかの武具などを持つことは、かたく禁止する。不必要な武具をたくわえ、年貢その他の税をなかなか納入せず、ついには一揆をくわだてたりして、領主に対してよからぬ行為をする者は、もちろん処罰する。（部分要約）

資料2 検地のようす



※ 江戸時代の検地の様子を描いたものですが、太閤検地もこれと同じように行われたと考えられています。



「百姓」つまり農民が武器を取り上げられた。

武器を持つのは武士、田畑を耕すのは農民。これで武士と農民の身分が区別されたんだ！

田畑の面積や収穫量を調べ、土地の所有者を検地帳に登録。

まずは、それぞれの資料から気付いたことや分かったことを自分の言葉で表現させる。その後、誰によって行われた、どのような政策を表す資料なのかを調べさせ、資料についての理解を深めさせる。その上で、なぜこの時代にこのような政策が行われたのかなどのねらいについて着目させ、考察させるとともに、この政策により当時の社会や人々の生活はどのように変化したのかという視点でさらに考えを深め、まとめさせることも効果的である。

- 時代ごとの変化や特色を、当時の民衆の視点を踏まえてとらえさせる。

小学校で学習した歴史上の人物や、その時代を特徴付ける大きな歴史的な事象についての学習に加え、それらの人物にかかわる政策などの歴史的な事象が、当時の民衆にどのような影響を与えたのかという視点で指導を行うことが重要である。特に、日本人の生活や生活に根ざした文化の学習においては、博物館などに収蔵されている文化財を見学・調査することで、多面的、多角的な歴史学習の考察が可能になり、より理解を深めることができると考えられる。

中学校第2学年 「古代までの日本～近世の日本（通史）」

【特徴的な問題】

- ⑤ (1) さまざまな時代や年代の表し方のうち、社会のしくみの特徴によって時代を大きく分けた場合、「中世」に当たる時期を略年表中の **A～E** の中から一つ選び、その記号を書きなさい。
- (5) 略年表中の **D** について、このできごとに関連する、日本と世界の貿易の様子をまとめた次の文章の **X** に当てはまる内容として正しいものを、下の **A～E** の中から一つ選び、その記号を答えなさい。

キリスト教が伝わったのち、 **X**

(注) 略年表は省略

第1～2学年 歴史 「近世の日本」

出題の趣旨

本問題は、平成27年度市調査において課題とされた「類似する用語の正しい概念の理解」に関する問題である。今回は、古代から近世の歴史的事象に関する略年表を基に、近世のヨーロッパ人の来航後に盛んになった「南蛮貿易」について理解しているかどうかをみる問題を出題している。また、歴史学習の基礎となる「年代の表し方や時代区分」については、継続的・計画的に学習が行われているかどうかをみるため、平成23年度からの同一問題として、中1では類似する問題として出題している。

指導のポイント

- 年表を活用する場面を設定し、基本的な知識や技能を計画的・継続的に身に付けさせる。
時代区分や西暦と世紀の関係は、繰り返し取り上げることで定着を図ることができる。毎時間の授業においては、時代区分や学習する世紀の確認に役立てることのできる年表の提示を、黒板への板書その他、ICTを活用した工夫などによって、日常的に時代や年号などに触れさせていくことが大切である。

- 単元のまとめにおいて、その時代の特色をまとめる作業的な学習を行う。

⑤(5)のような類似する語句を混同しないようにするためには、歴史を点でとらえるのではなく、産業の発達、社会の様子、文化の特色など、歴史的事象に関する原因や背景、その後の影響など幅広くとらえるとともに、他の時代の歴史的事象との共通点や相違点にも着目するとよい。

そのためには、年表づくりや人物相関図などを用いた作業的な学習や、歴史的事象を自分の言葉や図で表したり、小グループで発表したりする主体的な学習なども取り入れ、歴史を学ぶ意欲を高めさせたい。また、単元ごとに「まとめの時間」を設け、それまでの学習の蓄積を基に、各時代の特色の共通点や相違点に着目させながら、これまで学習内容を整理させることが、歴史の大きな流れを広い視野からとらえる力をはぐくむことにつながると考えられる。

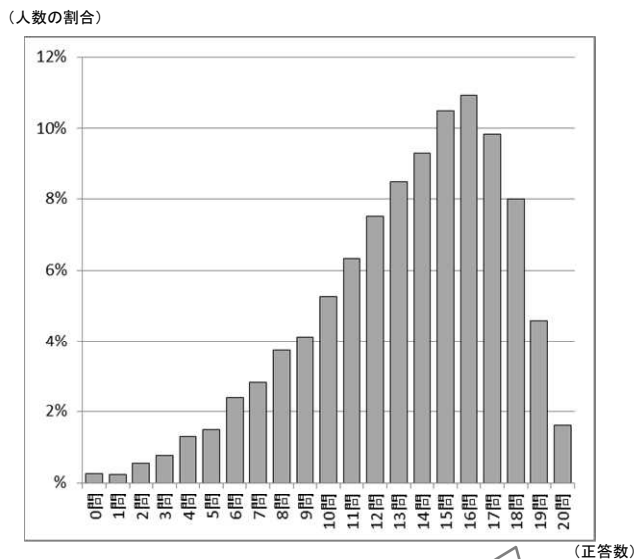
＜例＞ 類似する用語に関する知識を定着させるためのワークシート

語句	時代	世紀	キーワード	文章で まとめてみよう
勘合貿易	室町	14	明、倭寇、足利義満、勘合、…	勘合貿易とは、…
中継貿易	室町	15	尚氏、琉球王国、中国、朝鮮半島、東南アジア、…	中継貿易とは、…
南蛮貿易	安土桃山	16	ポルトガル、スペイン、南蛮文化、…	南蛮貿易とは、…
朱印船貿易	江戸	17	江戸幕府、東南アジア、日本町、1635年、…	朱印船貿易とは、…

Ⅲ 調査結果概況【市全体】

小学校第5学年【社会】

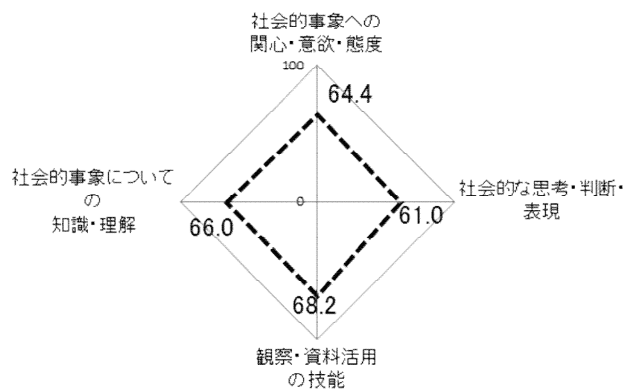
【正答数分布】(全20問)



正答数ごとの人数の割合を示したものです。
例えば、20問中18問正答した児童の割合が8.0%
程度であることを表しています。

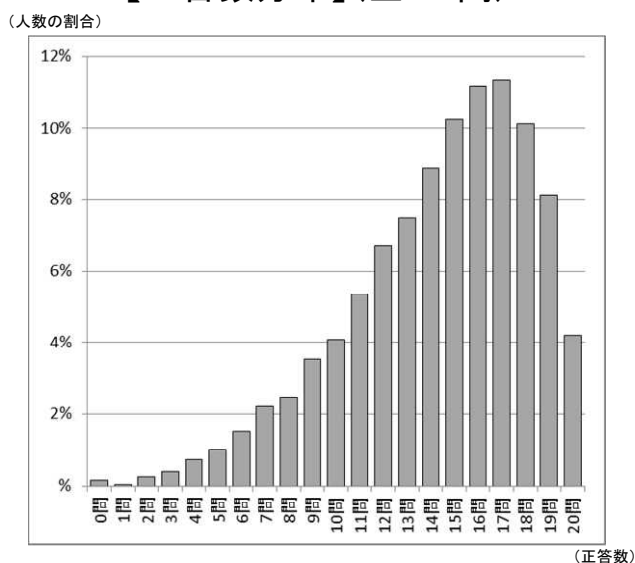
【領域別レーダーチャート】

数字・・・市の平均正答率 (%)



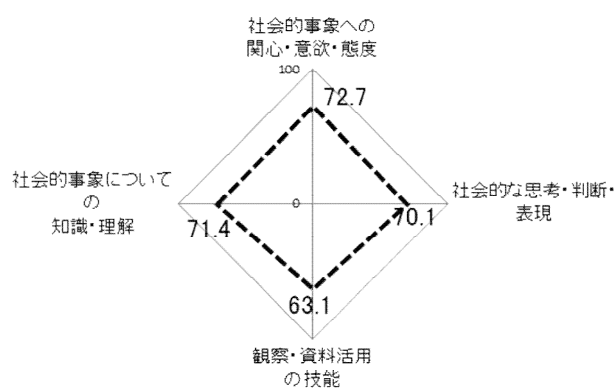
小学校第6学年【社会】

【正答数分布】(全20問)



【領域別レーダーチャート】

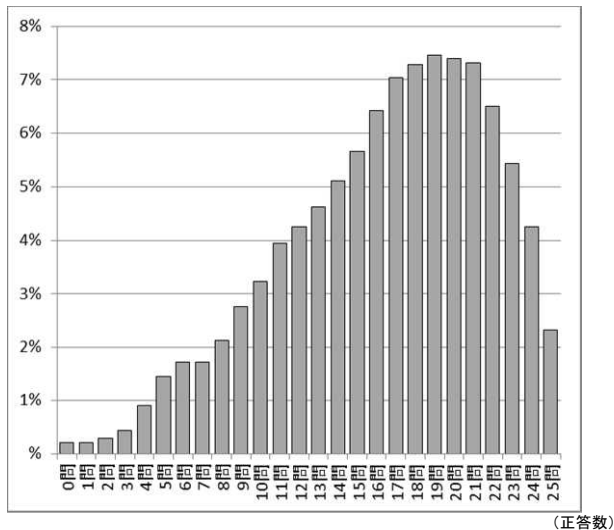
数字・・・市の平均正答率 (%)



中学校第1学年【社会】

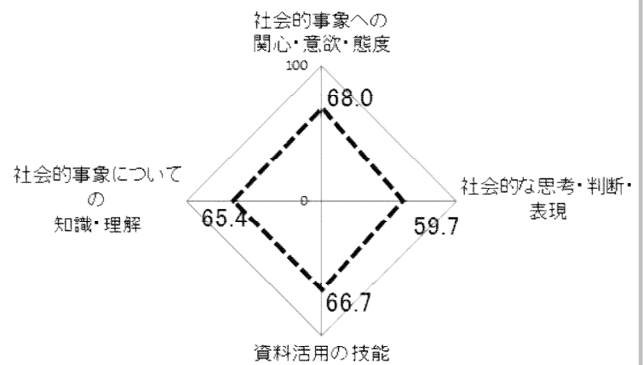
【正答数分布】(全25問)

(人数の割合)



【領域別レーダーチャート】

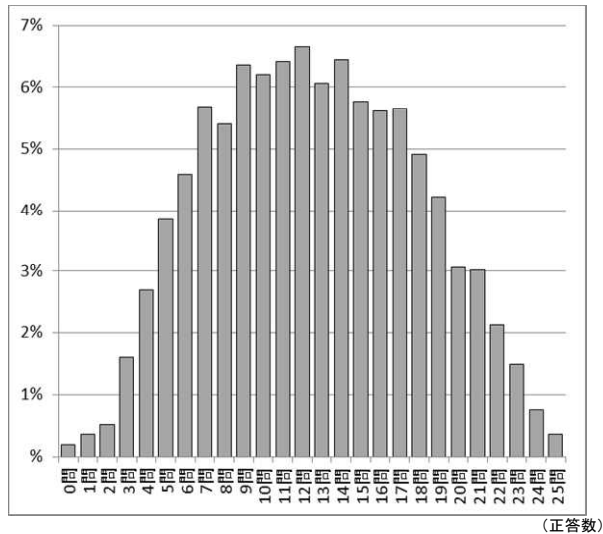
数字・・・市の平均正答率 (%)



中学校第2学年【社会】

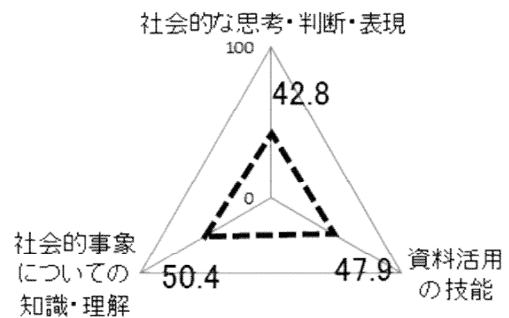
【正答数分布】(全25問)

(人数の割合)



【領域別レーダーチャート】

数字・・・市の平均正答率 (%)



IV 成果と課題

(1) 小学校

<成果>

- 「都道府県の名称と位置」(福島県、新潟県)についての正答率が小5、小6ともに高い。中学校の結果を合わせてみると、取り上げる都道府県により正答率が変わってくることがうかがえるため、引き続き、各学年で地図帳を活用しながら定着を図っていくことが求められる。
- 「日本の主な食料自給率」(小5)や「都道府県別の米の生産量」(小5)、「自然災害による被害を防ぐ取組」(小6)を読み取る問題の正答率が高い。資料から読み取った情報を基にして、総合的に関連付けたり、自分たちの生活と関連付けたりするための提示の仕方や発問をさらに工夫していくことが望まれる。
- 「歴史上の人物と業績」に関する問題の正答率が高く、改善傾向がみられる。単に過去のできごとを理解させるだけでなく、児童が社会的事象間のつながりを考える学習活動をさらに工夫していくとよい。

<課題>

- ▲方位や地図記号に関して身に付けた知識を活用する問題に引き続き課題がみられる。しかし、経年比較すると、同一集団においては、正答率が昨年度より20%近く上回った。身に付けた知識を活用して地理的位置などを表現する活動を各学年で充実させることが大切である。
- ▲「ロボットに溶接の作業をさせる理由」や「米づくりによる人々の暮らしの変化」を考える問題は選択式であっても正答率が低いなど課題がみられる。社会的事象の目的や意味を考えられるように、具体的な事例について空間的、時間的にみたり、様々な立場から関係付けてみたりして、多面的・総合的に考える指導を繰り返し行うことが大切である。
- ▲指定された用語を用いて「さんまの水揚げ量と値段の関係」を文章で表現する問題に課題がみられる。既習の知識や資料から読み取った情報を根拠にして、社会的事象を説明する活動を意識的に行うことが必要である。

(2) 中学校

<成果>

- 緯線と経線が直角に交わった地図における「世界の主な大陸の名称と位置」(中1)や「地図上の赤道や本初子午線の位置」(中1、中2)など、地理学習の基礎的・基本的な事項に関する問題の正答率が高い。授業で繰り返し扱われることの多い内容についての知識の定着は図られている。
- 小学校でも学習している歴史上の人物について、「明治期に活躍した人物の業績」(中1)や「年代の古い順の並べ替え」(中2)に関する問題の正答率は比較的高い。小学校での学習内容を活用しながら、言語活動の充実を図るなど学習活動を工夫し、より確かな理解と定着を図ることが望まれる。
- 経年比較のため、中2において出題した「中世」の時期を年表中から選ぶ問題は、年々正答率が上がっている。「我が国の歴史の大きな流れ」を理解させるために、時代を大観し表現する活動をさらに充実していくことが求められる。

<課題>

- ▲「東南アジアの工業の発展」(中2)や「歴史上の人物が行った政策」(中2)について説明する問題に課題がみられる。複数の資料を関連付けてまとめる学習をスモールステップで取り組ませ、書くことに慣れさせることが大切である。
- ▲「緯度、経度を使った地球上の位置の表し方」(中1)や「時差を求め、地図上の位置を選ぶ」(中2)問題については、選択式にもかかわらず正答率が低い。地球儀などを活用しながら「目的に応じた地図の特徴」に関する復習も交えて、着実な理解を図りたい。
- ▲「西暦と世紀の関係」(中1、中2)や、「中世以降の民衆の動きや文化」(中2)に関する問題において課題がみられる。各時代の社会の様子や文化の特色などについて、自分の言葉や図などで表したり、互いに意見交換したりする学習活動により、他の時代との共通点や相違点に着目しながら、大きくとらえさせることが大切である。